

V2 令和7年度県立龍野北高等学校学校評価（全日制）現状分析と今後の取り組み

A : 4.0～3.5 B : 3.4～2.9 C : 2.8～2.3 D : 2.2～1.7 E : 1.6～1.0

領域	評価内容	No.		質問項目	R7平均	R7評価	R6平均	R6評価	担当	現状分析・課題	今後の取り組み・改善策
教科指導	確かな学力の育成	1	教	1. 基礎・基本の定着を基盤に、言語活動・理数教育・情報活用を通じて主体的で深い学びを促す指導に努めている。	3.3	B	3.1	B	教務部	- 基礎・基本の定着に向けた授業改善を進め、言語活動や ICT 活用にも取り組んでいるが、教科間で実践の水準に差が見られ、深い学びにつながる指導手法の共有が十分とは言えない。 - 生徒の実態に応じた個別最適な学習支援も、今後一層の体系化が必要である。また、生徒参加型の授業や探究的な学習は一定の成果があるものの、教科によって取組の深まりにばらつきがある。 - 専門教育では実習等に成果が見られる反面、生活指導との連携を通したキャリア意識の育成が弱く、学びと生活を一体的に支える指導体制の強化が課題である。	- 基礎・基本の定着と深い学びの実現に向け、言語活動・振り返り活動・ICT 活用などの共通実践を全教科に広げ、授業改善の標準化を図る。併せて、学力把握を基にした個別最適な学習支援を充実させ、生徒の学習状況に応じた指導の質を高める。 - 魅力ある授業づくりのため、生徒参加型の学習や探究的な活動を計画的に推進し、進路指導との連動を強めることで学習意欲の向上を図る。
			生		3.4	B	3.3	B			
			保	基礎・基本の定着に努めている。	3.3	B	3.1	B			
	魅力ある教育課程・授業内容	2	教	生徒の興味・関心や進路目標に対応し、学びたいことが学べる教育課程を編成している。	3.4	B	3.2	B			
			生		3.4	B	3.2	B			
			保	生徒の興味・関心や進路目標に対して、授業が開講されている。	3.3	B	3.0	B			
	専門教育の充実	3	教	専門性を高め、実践的なスペシャリストを育成する専門科の教育が充実している。	3.5	A	3.2	B			
			生		3.5	A	3.5	A			
			保	実践的なスペシャリストを育成する専門科の教育が充実している。	3.3	B	3.2	B			
生徒指導	基本的生活習慣の定着	4	教	【生徒指導】挨拶やマナー等の基本的生活習慣を確立し、生徒の規範意識を高める指導を行っている。	3.5	A	3.2	B	生徒指導部	- 挨拶はある程度出来ているが、「立ち止まり礼」に関しては中途半端になってしまっている生徒が見受けられる。 - 基本的生活習慣においても遅刻、欠席が非常に目立ってきているのが現状である。 - 校則に関しては生徒の意見を取り入れながら少しずつ時代に沿ったものに移行して。今後も生徒の様子を見ながら進めていきたい。 - 指導件数は増加しており規範意識の低い生徒が多く見られる。	- 様々な機会を通して、挨拶や立ち止まり礼の重要性を絶えず生徒に伝えていく必要がある。 - 学年、担任だけでなく科やクラブ活動レベルでの指導がもっと必要でないかと思われる。 - 朝の立ち番だけでなく様々な場面において教員側から積極的に声掛けを行う必要がある。 - 気になる生徒について声掛けや面談などを積極的に行っていく。 - 掲示物や配布物なども活用し、生徒の基本的生活習慣や規範意識を高めていく。
			生	【生徒指導】挨拶やマナー等の基本的生活習慣を確立し、規律ある学校生活の指導をしている。	3.6	A	3.5	A			
			保		3.4	B	3.3	B			
	生徒理解に基づく指導	5	教	生徒の共感的理解につとめ、生徒が安心できる環境で生徒の自立をめざす指導を行っている。	3.3	B	3.1	B			
			生		3.2	B	3.2	B			
			保	生徒の共感的理解につとめ、自立をめざす指導を行っている。	3.1	B	3.0	B			
	いじめ防止対応の確立	6	教	いじめ基本方針に基づき、「いじめを防止し、いじめを許さない学校づくり」に取り組んでいる。	3.4	B	3.3	B		- アンケートの中で、数はそこまで多くはないが、生徒間の小さなトラブルは報告されている。それらについては教員の適切な対応により解決している。 - よい人間関係を構築していくためには何が必要かを考えさせる必要がある。 - SNSがらみのトラブルが多い。	- SNSが絡んでいる問題が多いので、SNSの正しい利用について考えるアプローチを積極的に行っていく。 - 普段から生徒の様子を注意深く観察し、小さな変化に気づき、声掛けや面談等を行い、生徒が相談しやすい環境を作る。 - 生徒の様子について、家庭との情報共有を密に行うことが必要であると考え。
			生	「いじめを防止し、いじめを許さない学校づくり」に取り組んでいる。	3.2	B	3.4	B			
			保		3.0	B	3.0	B			
	学校行事の充実	7	教	学校行事の内容が充実しており、学校生活を豊かにしている。	3.3	B	3.2	B			
			生		3.0	B	3.1	B			
			保	学校行事の内容が充実している。	3.1	B	3.2	B			
	部活動の充実	8	教	部活動が活発であり、生徒の個性の発見や可能性の伸長をめざし、目標に向け協力して取り組む資質能力を育てている。	3.1	B	3.0	B		- 学校行事に関しては、全体的に楽しく参加しているようではあるが、企画・準備等への参加は非常に消極的であるように思える。 - 部活動に関しては、運動部と文化部を合わせると約8割の生徒が入部をしているが、入部していても参加していない生徒が多いなど活性化が難しくなっている。 - 運動部への入部率を上げていきたい。	- 企画・準備段階から生徒が積極的に行うように指導することが必要である。 - 行事の実施時期や実施内容の検討も必要ではないかと考える。また、生徒会を通じて生徒の意見を取り入れる環境を整えていく。 - 入部を促すことも必要であるが、生徒たちが積極的に参加できる環境づくりを考えていく必要がある。 - 部活動の意義、良さをもっとアピールしていく必要がある。教員からの発信ではなく生徒からの発信をしていく必要がある。
			生		3.4	B	3.3	B			
			保	部活動が活発であり、様々な資質能力を育てている。	3.1	B	3.1	B			

進路指導	勤労観・職業観の醸成	9	教	キャリア教育（職業ガイダンス・セミナー・インターンシップ等）が充実している。	3.3	B	3.2	B	進路指導部	・キャリア教育を充実するため、進路ガイダンス、就業体験（インターンシップ）、進学補習などを行っているが、まだまだその重要性を生徒や保護者に伝えきれていない。また、進路について考えるのは3年生になってからという意識が強く、早い段階から進路実現に向けて取り組めていない。	・本校でのキャリア教育の取り組みについて、保護者をはじめもっと外部に発信する必要がある。また、3年間通しての進路実現に向けて取り組みを体系化する必要がある。 ・2学年工業科の就業体験（インターンシップ）は、R7までは就職希望者のみであったが、R8より全生徒参加に変更する。これにより、生徒全体の将来の職業に関する意識の向上を図る。
			生	職業ガイダンスセミナー・インターンシップなどキャリア教育が充実している。	3.5	A	3.4	B			
			保		3.2	B	3.1	B			
	個を尊重する進路指導体制の充実	10	教	将来について考え、進路目標を明確にするための情報を適切に提供し、進路希望に応じた指導を行っている。	3.3	B	3.3	B			
			生	生徒に情報を適切に提供し、自分の進路希望に応じた指導を行っている。	3.4	B	3.3	B			
			保		3.2	B	3.1	B			
人権教育	地域との繋がり深化	11	教	各学科の学習・体験活動やボランティア活動等を通じ、地域に貢献する心を育成する教育活動を実践している。	3.3	B	3.1	B	図書人権部	・各科、各部、各学年で、地域と関わる行事を多く行ってきたが、生徒たちがそれらの行事を通して、地域に貢献することの大切さを、よく理解していると思われる。	・継続するべきものは継続し、時代に合うように改善するべきものは改善し、今後も生徒・保護者のニーズに応えられるものを実施していきたい。 ・生徒の評価が比較的高いので、これらが続くようにしていきたい。
			生	各学科の学習、体験活動やボランティア活動等を通じ、地域に貢献する心を育成している。	3.5	A	3.3	B			
			保		3.2	B	3.1	B			
	ハラスメント対策	12	教	教育活動を通じて命や人権を大切にする態度を育て、生徒の安心・安全な学校生活を保っている。	3.2	B	3.1	B			
			生	教育活動を通じて命や人権を大切にする態度を育て、生徒の安心・安全な学校生活を保っている。	3.4	B	3.4	B			
			保		3.1	B	3.1	B			
	情報モラルの育成	13	教	SNS等、新たな形態の人権侵害に関する情報モラル教育に取り組んでいる。	2.9	B	3.0	B			
			生	SNS等、新たな形態の人権侵害に関する情報モラル教育に取り組んでいる。	3.3	B	3.4	B			
			保		3.0	B	3.0	B			
国際理解教育	国際交流活動の推進	14	教	国際交流の機会を提供し、多文化共生の精神を育成している。	2.5	C	2.5	C	国際理解教育推進委員会	・ALTとは授業や部活動で関わる程度であったと思われるが、1・2年の男子の一部は廊下で会った際にも(挨拶程度ではあるが)積極的に話しかける様子が見られた。 ・英会話部の生徒は前ALTの母親の生徒と文通を行ったが、英会話部以外でそのことを知っている生徒・職員はいないであろう。	・文通などを行う際には英会話部だけでなく一般の生徒も巻き込めたらよいと思う。(今回は相手の人数も少なく難しかった。)
			生	国際交流や異なる文化や価値観に触れる機会がある。	2.7	C	2.9	B			
			保		2.6	C	2.5	C			
	コミュニケーション能力の育成	15	教	ALTやインターネット等のICTを活用し、国際理解の推進と外国人とのコミュニケーション能力の向上を図っている。	2.7	C	2.8	C			
			生	ALTやインターネット等のICTを活用し、外国人とのコミュニケーション能力を高める機会がある。	3.0	B	3.0	B			
			保		2.6	C	2.6	C			
情報教育	ICTを活用した学習活動の推進	16	教	ICT機器を活用し、授業・実習内容の充実や学習の効率化を図り、ICT活用能力の育成に努めている。	3.3	B	3.1	B	学校教育システムセンター委員会	生徒のiPadを活用して、インターネットの検索や授業でのレポート作成、スライドを活用した発表などICT機器活用能力は向上してきた。教員のICTを活用した教材提示などの工夫も進んでいる。しかし、効果的な教材づくりについては作成時間もかかり、教材の蓄積と共有化が必要。	・各教科でのICT技術の実践的活用 ・各教員の教材の共有化と実践内容の交流 ・NHKone等外部教材の活用 ・体育館、各専門科教室のA P増設を活用して、タブレット端末の活用
			生	ICT機器を活用し、授業・実習内容の充実や効率化を図り、ICT活用能力を育てている。	3.3	B	3.3	B			
			保		3.0	B	2.9	B			
情報教育	情報モラル教育の充実	17	教	AIの使用、個人情報の保護・著作権など情報発信に伴う責任や、トラブル回避法に関する教育を行っている。	2.9	B	3.1	B	学校教育システムセンター委員会	インターネット上にはSNSなど便利なツールもある一方、情報の信頼性や他者の著作権侵害や知らないうちに人権侵害になることも多い。教員のICT技術とモラルの向上のもと、トラブル防止やクリティカルシンキング（批判的思考）の実践の中で情報の真偽の判断力をつけていきたい。	・教育委員会から提供されるネットトラブル防止の教材の活用 ・今年度実施した、県警本部のサイバー犯罪防止講演会等外部機関の活用 ・各授業において、クリティカルシンキングを実践させる授業の実施
			生	AIの使用、個人情報の保護・著作権など、トラブル回避法に関する教育を行っている	3.1	B	3.3	B			
			保		2.9	B	3.0	B			

防災・安全教育	防災教育の推進	18	教	学校設定科目「防災」や「地域拠点型合同防災訓練」を実施し、災害時に主体的に判断し行動できる力を育てている。	3.6	A	3.3	B	地域連携部	・学校設定教科「防災」は3年生のみが選択できる教科である。地域拠点型合同防災訓練では日頃の学習の成果を発表した。 ・地域拠点型合同防災訓練では例年の防災学習ブースに加え、たつの市による展示を新設したり、去年は業者に委託していたVR体験を電気科の生徒で自作した。 消防署、自衛隊、警察署、防災士など地域と連携し、学校全体の防災意識の向上に繋がったと考える。	防災教育に関して生徒や教職員の評価は高いが、それに比べると保護者は低くなっている。本校の取り組みを保護者に知ってもらい機会をもっと増やすべきだと考える。
			生	学校設定科目「防災」や「地域拠点型合同防災訓練」を実施し、災害から自らを守るために必要な力を育てている。	3.6	A	3.5	A			
			保		3.2	B	3.2	B			
	地域と連携した学校防災体制の充実	19	教	警察、消防、家庭、地域の自治会と連携・協力し、防災活動を推進する地域の拠点としての役割を果たしている。	3.5	A	3.3	B	地域連携部		
			生	警察、消防、家庭・地域の自治会等と連携・協力し、防災活動を推進する地域の拠点となっている。	3.5	A	3.5	A			
			保		3.1	B	3.1	B			
	交通安全に対する高揚	20	教	生徒の交通マナーの向上と交通安全に対する意識を高める教育を行っている。	3.2	B	3.0	B	生徒指導部	・公共交通機関の乗車マナーに関する苦情（荷物の置き方、騒ぐ、スマホからの音漏れなど）が非常に多い。また、自転車乗車中のスマホやイヤホンの使用も多い。重点・継続的に指導する必要がある。	・JRの職員の方と協力して月1回のマナー指導を行っている。 ・電車の乗車マナーや自転車乗車に関しての遵守事項などの啓発プリントを配布している。 ・公共交通機関のマナーについては学年だけでなく、科も含めた継続的な指導をしていく。
			生	生徒の交通マナーの向上と交通安全に対する意識を高める教育を行っている。	3.3	B	3.4	B			
			保		3.0	B	3.0	B			
	危機管理への取り組み	21	教	教職員や生徒が、緊急救急体制や心肺蘇生法、AEDの習得に努め、危機発生時に備えた研修・訓練を実施し対応能力を備えている。	3.3	B	3.3	B	保健部	・連日の猛暑による熱中症やアレルギー等身体的配慮が必要な生徒のために、教員と部活動の有志に対して、AED・エビペン講習を実施した。	・AED講習の対象を再考し、教師不在の場合なども想定し、より多くの生徒にも危機管理意識を高めるような計画をしたいと考えている。
			生	心肺蘇生法、AEDの習得等の研修訓練を実施し、命を守る教育活動をしている。	2.9	B	3.2	B			
			保		2.9	B	3.0	B			
学校保健	学校保健活動の推進	22	教	健康診断を計画的に実施し、生徒や教職員の健康管理に努めている。	3.3	B	3.4	B	保健部	・授業担当教員の協力も得ながら、年度当初より過密なスケジュールで各種検診を計画し実施した。本年度も受診案内を年に2回実施したことにより、受診率も最高26.1%上昇した。	・さらなる受診率上昇を目指し、生徒への受診案内方法の改善や保健だよりを活用した啓蒙活動に励み、生徒たちの健康管理に取り組みたいと考えている。
			生	健康診断を計画的に実施し、生徒の健康管理に努めている。	3.3	B	3.3	B			
			保		3.2	B	3.2	B			
	美化活動の推進	23	教	日々の清掃指導を通して、学校美化・環境整備に努めている。	3.2	B	3.3	B	保健部	・毎月、厚生委員によりトイレを中心とした清掃点検を継続して行った。また各学期末には普段清掃分担が当たっていない場所の清掃活動を厚生委員により実施した。 ・監督者が不在であっても、生徒自ら校内美化に努めるよう意識した指導が必要であった。	・年度当初から清掃指導を徹底し、自ら清掃することを習慣化できるよう、教員側も意識することが必要と考える。
			生	清掃活動を日々行い、学校美化・環境整備に努めている。	3.5	A	3.4	B			
			保		3.2	B	3.2	B			
	教育相談体制の充実	24	教	日常的教育活動を通して、一人一人の状態の把握に努め、家庭や外部機関等と連携した指導を行っている。	3.2	B	3.3	B	保健部	・毎月教育相談だよりを発行し、キャンパスカウンセリングの活用を促した。 また、保健部で知り得た生徒情報は学年へ伝え、連携を図ろうと試みた。 ・昨年度と比較して今年度は、保健室の来室者数は全体に増加したが、1年生の来室が増えたことが要因と考えられる。	・些細な不安であっても、生徒が相談しやすい環境作りを行いたい。 また、教員同士が常時情報共有しあうことで、生徒たちへのサポートがスムーズに行われ、生徒の悩みが深刻化する前に対応ができるのではないかと考える。
			生	個人面談やキャンパスカウンセリングによって、心身の健康や悩みを相談できる機会がある。	3.3	B	3.2	B			
			保		3.1	B	3.0	B			
特別支援教育	適切な指導及び必要な支援の提供	25	教	インクルーシブ教育システムを構築し、個人に必要とされる「合理的配慮」を提供できる体制が構築されている。	2.9	B	2.9	B	特別支援教育委員会	校内委員会などを通し、職員間の共通理解を図り、組織的に支援することを意識的に行った。また、視覚支援者に対して、デジタル教科書の使用等の学習支援に努めた。キャンパスカウンセラーや保護者、その他の関係機関との連携を強めることで、一貫した支援ができるよう努めた。	職員間で共通理解を図り、キャンパスカウンセラーや保護者、その他関係機関との連携を強めることで一貫した支援ができるよう、引き続き努めていきたい。
			生		3.3	B	3.2	B			
			保	特別な配慮を要する場合に適切な対応をしてくれる。	3.0	B	3.0	B			